

I 設置の趣旨

1 設置の趣旨

技術革新の急速な進展、高度情報化社会の出現、国際化の進展、高齢化社会の到来など、現代社会は21世紀に向け大きく変化して来ている。こうした社会情勢の変化に対応し、人々が真に豊かさを実感できる社会を実現するためには、何よりも、将来を担う“人づくり”が重要であり、とりわけ自己を確立し、社会のあらゆる現象に柔軟な発想と豊かな創造力で対処できる有為な人材の養成が不可欠となっている。

大学等の高等教育機関は、これまでもこうした人材の養成に大きな役割を果たしてきたが、これからの大学には、これまで以上に“人づくり”の中心として、より高度な教育機関としての人材養成が求められることはもとより、創造的な学術研究機能により地域社会の発展に貢献することが強く期待されている。

また、本県においては、高等教育機関の拡充整備は長年にわたる悲願となっている。本県の高等教育機関は、近年、看護・福祉系の短期大学を中心に新たに3校が開学するなど、短期大学については徐々に整備されつつあるものの、最近の高校生の進学志向の強い4年制大学については県内にわずか2校だけであり（資料1）、本県の4年制大学の収容力は平成9年度で10.0%（全国46位）と、依然として全国最低クラスの整備水準となっている（資料6、7）。このため、全国的傾向と同様に大学及び短期大学への県内高校生の進学率・進学者数及び志願率・志願者数は近年上昇を続けているものの（資料4、5）、県内大学の収容力の低さや学部・学科の選択の幅の狭さから（資料3）、4年制大学への進学の際の県内残留率は低下傾向にある（資料8）。最近3年間では、毎年3,000人（進学者の約80%）以上の県内高校生が県外の大学や短期大学に進学しており、年々その人数は増加している（資料9）。県民に対するアンケートにおいても、県民の4年制大学の拡充整備に対するニーズは高校生、保護者、高校教員、企業を問わず非常に高く（資料17）、新たに県立大学を設置することにより、県内高校生の進学機会の充実や保護者の教育費の負担軽減を図るとともに（資料16）、創造性豊かで優秀な人材の育成・確保に貢献する4年制大学を整備することは、21世紀の活力ある秋田の構築を目指す本県の最重要課題となっている。

さらに、本県の産業振興の面からも、技術者・科学者の育成機能と研究機能を持つ4年制大学の整備は急務となっている。本県はこれまで、技術革新の急速な進展や競争の激化に対応して足腰の強い産業構造へと転換することを目指して、新たな技術開発をリードし地域産業の高度化をサポートする試験研究機関の整備を積極的に推進してきている（資料10）。しかし、これら試験研究機関の成果を産業振興と有機的に結びつける研究機能と、新たな技術の研究開発を担う優秀な研究者や技術者を育成する教育機能を備えた高等教育機関が県内には極めて乏しい状態となっている（資料1）。さらに、上述のアンケート調査においても、とりわけ県内企業からは優秀な人材の確保の観点から、特に工学系の学部に対する強い期待が寄せられている（資料21）。また、本県が全国

有数の農業県であるにもかかわらずこれまで4年制大学の農学系学部が存在しなかったことや(資料3)、バイオテクノロジーを活かした食品関連産業や環境関連産業などが21世紀の新たな産業として大きな可能性を秘めた分野として関心と期待を集めていることから、生物資源系の学部の設置が重要となっている。これらのことから、「システム科学技術学部」と「生物資源科学部」の2学部で構成する大学を整備しようとするものである。

また、県民の所得水準の向上、労働時間の短縮など、県民生活の変化による価値観の多様化に対応し、公開講座の開設など広く県民に高度な教育機会を提供することが、生涯学習などによる県民生活の充実を図るための重要な課題となっている。

このほか、新たな県立大学の設置によって、県内外から優秀な教員や学生が集まるとともに、研究者の自由な発想による創造的、先端的な研究活動が呼び水となって優秀な人材の交流促進が期待される。

なお、本県が取り組むべき21世紀へのアクションプログラムである「秋田県新総合発展計画後期計画」(平成8年3月策定)においては、次代を担う優秀な人材の養成に努めることをメインテーマとして、各種施策を展開することとしているが、県立大学の設置は、この計画においてリーディングプロジェクトとして位置づけられている。

このように、県立大学の設置は、深い洞察力と卓越した行動力を備え、未知の分野を切り拓く次代を担う創造性豊かな人材の育成を図るとともに、その教育研究機能による創造的な学術文化の創出や地域産業の高度化への寄与、広く県民に高度な教育機会を提供することなど、本県の持続的発展に大きく貢献するものである。

2 大学の基本理念

(1) 本学の基本理念

本学は、次の二つの点を基本理念として創設される。

① 21世紀を担う次代の人材育成

本学は、真理探究の精神と、未来を切り拓く幅広い視野・柔軟な発想や豊かな創造力を兼ね備えた、21世紀を担う次代の人材を育成することを目的とする。

② 開かれた大学として、本県の持続的発展に貢献

本学は、先端的な科学の研究及び技術の開発を行うことにより、地域産業の高度化を通じた本県の産業振興に寄与するとともに、県民に対して生涯にわたる高度な教育機会を提供することにより、本県の持続的発展に大きく貢献することを目的とする。

(2) 基本理念実現のための4つの視点

本学は、基本理念の実現のため、次の4つの視点を基本とした教育と研究を行う。

① 時代の変化に対応できる問題解決能力と、自ら能力を磨くことができる基礎的能力を兼ね備えた人材の育成

科学技術が高度化し、さらに技術革新が加速化している現代において、科学技術の最前線で活躍するためには、細分化された個別専門分野の知識や技術の習得にとどまらず、幅広い視野から真理を探究するとともに、自ら問題を発見し、解決する能力を習得することが重要である。本学は、現代の科学技術の幅広い要請に応えられるよう、問題発見能力と解決能力を兼ね備えた、研究者・技術者の育成を目指す教育を展開する。

また、時代の変化に対応し、自ら能力を磨くことができるよう、情報処理能力、外国語能力、表現能力など、不断の学習活動に必要な基礎的能力の訓練を重視し、社会人として自立できる人間の形成に資する教育を行う。

② 学生の学習に配慮した教育課程の提供

社会の変化に柔軟に対応しうる教育課程の編成に配慮するとともに、学生の学習意欲、学習効率の向上に重点を置き、魅力ある教育課程を編成する。

具体的には、(i)学生と教員の触れ合いを重視した少人数教育、(ii)国際化に対応した実践的な語学教育、(iii)高度情報化に対応した情報処理教育の徹底、(iv)集中的な講義による履修期間の短縮化、(v)放送大学との連携による単位互換制度の導入など、特色ある教育課程の編成、実施を図る。

③ 独創的な研究と、諸研究機関との連携による総合的な研究の推進

技術革新が加速化している今日、大学等の高等教育機関には、これまで以上に先進的、独創的な研究を推進することが求められている。このため本学では、学術研究の進展や技術の高度化に対応した先進的、独創的な研究を行うとともに、関連する学術分野の有機的連携を図る。このため、現在、県立農業短期大学附属の研究所となっている生物工学研究所及び木材高度加工研究所については、本学の開学時にそれぞれ生物資源科学部及び本学の附属研究所として位置づけるとともに、県内の諸試験研究機関（システム科学技術学部関係では高度技術研究所や工業技術センターなど、生物資源科学部関係では総合食品研究所や生物資源総合開発利用センターなど（資料10））や企業、関連団体等との産学官の連携を図りながら、学術研究交流や共同研究、受託研究などの研究協力を実施し、総合的な研究や地域的な特性に応じた特色ある研究を多面的に推進することにより、相乗的な研究成果が得られるよう努める。

④ 地域社会への積極的な貢献

今日、大学等の高等教育機関には、単に学問の府として真理を探究するだけでなく、その成果を社会に還元し、地域社会の発展に貢献することが強く求められている。

本学は、本県における学術文化の中心として、県民のニーズに対応した公開講座の開設など、広く県民に高度な教育機会を提供することにより、生涯学習など県民生活の充実を図り、地域文化の発展に寄与するとともに、大学の学術研究情報の公開を推進するなど、地域コミュニティの一員として大学の教育・研究の成果を積極的に還元することにより、地域産業の高度化や地域社会の発展に貢献する。